

琵琶湖のアユの資源調査



びわ湖のアユはびわ湖内では10cmくらいにしかありませんが、川に放流するなどで餌がたくさん食べられると大きくなります。

そのため、つくだ煮などで食べられるだけでなく、養殖や釣りのために川に放流する稚魚にするため、全国に出荷されます。



鮮魚・加工品



養殖用種苗



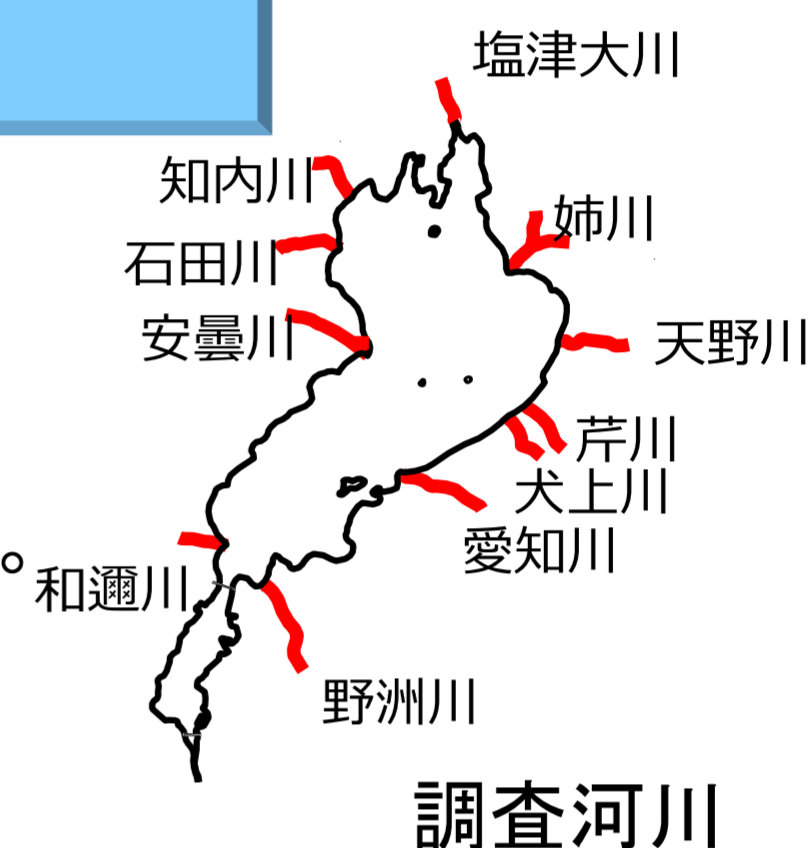
釣り用放流種苗

びわ湖漁業の中では最も大事な魚であるため、アユの資源調査は古くから行われています。

産卵調査（産卵数）



- 8月～11月にアユがよく産卵する11河川に行き、産卵しているアユの卵を数えます。
- 昭和22年(1947年)から続けています。
- 過去10年の平年値は85億粒。
- 近年は姉川にかたよって8割を占める年もあります。



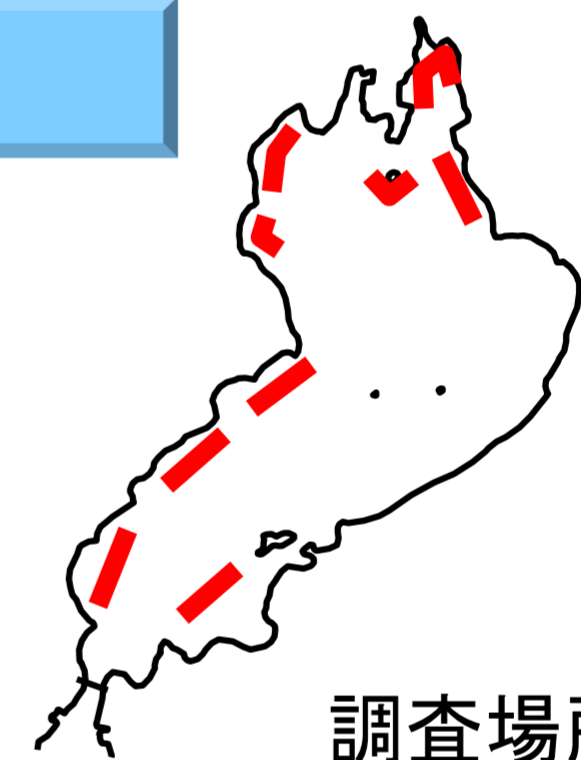
調査河川

ヒウオ生息状況調査（仔魚密度）



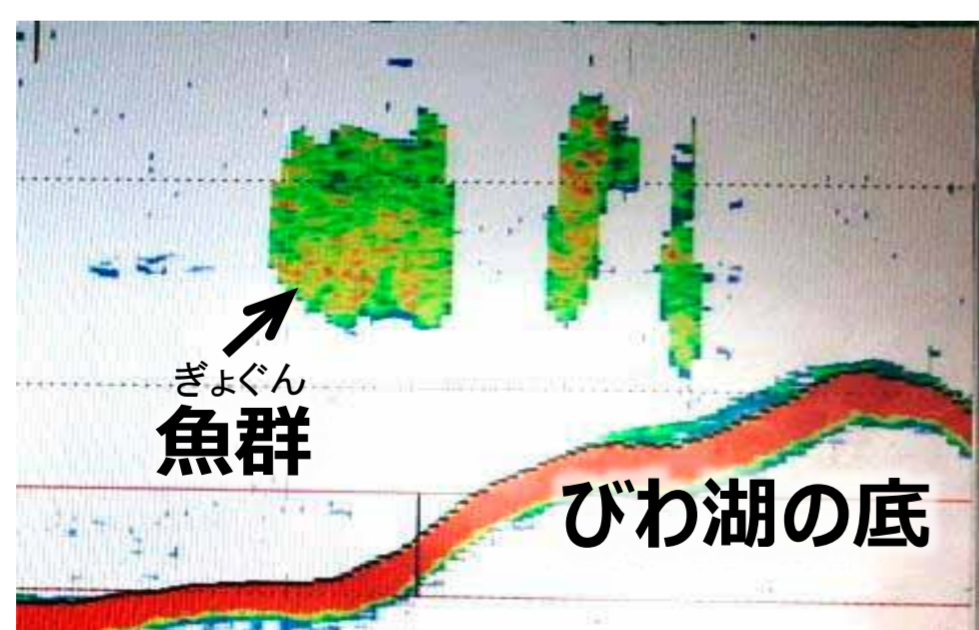
体が透きとおったアユのこどものことをヒウオ(氷魚)といいます。

- 10月～12月に新月の夜(やみ夜)に調査船で網をひきます。とれたヒウオの数や大きさを調べます。
- 昭和23年(1948年)から続けています。
- 産卵からふ化して、びわ湖へ加わってくる状況を見ています。

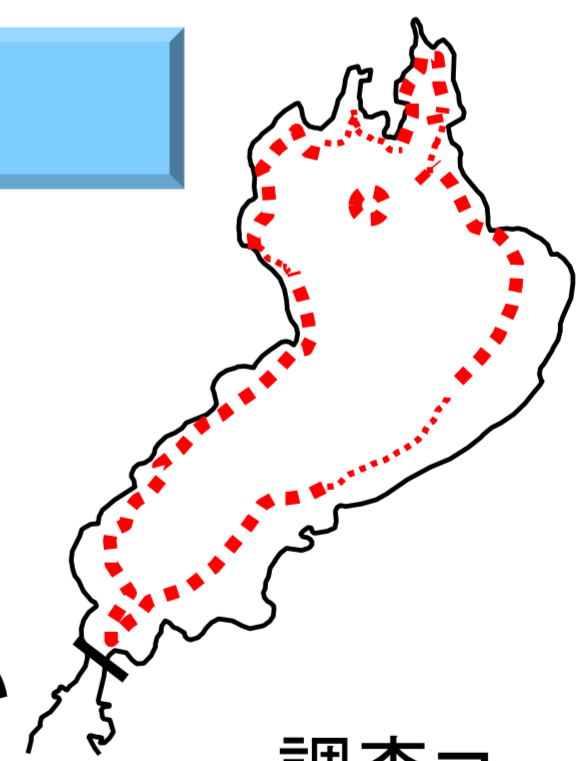


調査場所

湖中アユ魚群分布調査（魚群数）

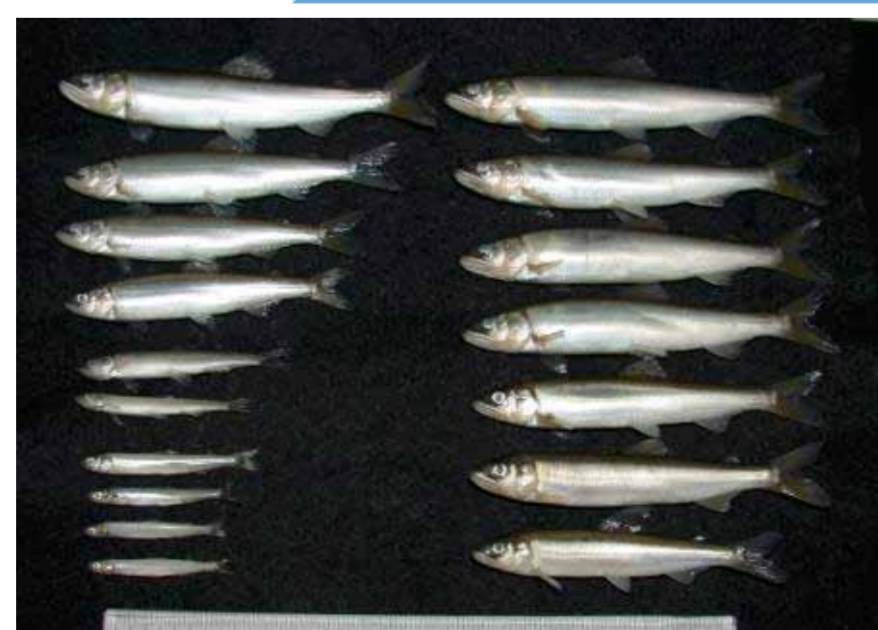


- 1月～8月に調査船でびわ湖を周回し、魚群探知機にうつった魚の群れ(魚群)の数や大きさを調べます。
- 昭和34年(1959年)から続けています。
- びわ湖のアユの分布状況や量を見ています。



調査コース

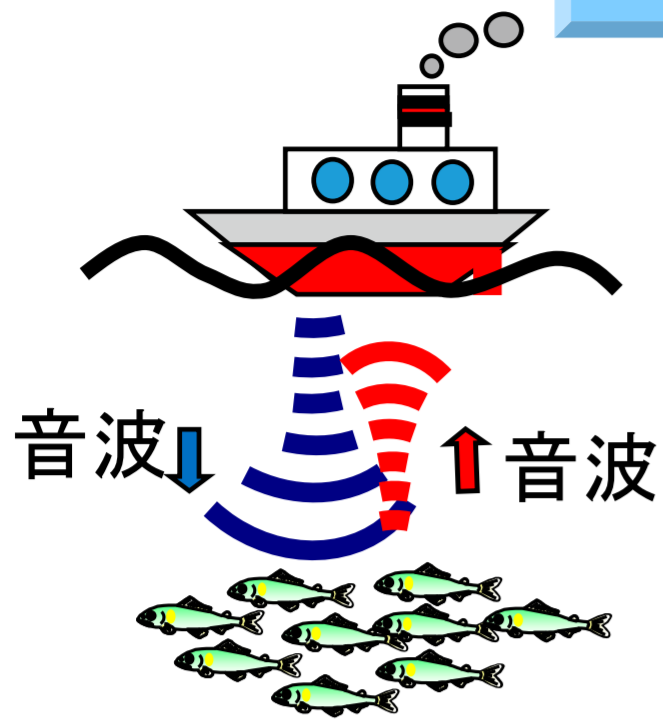
漁獲状況調査（成長状況）



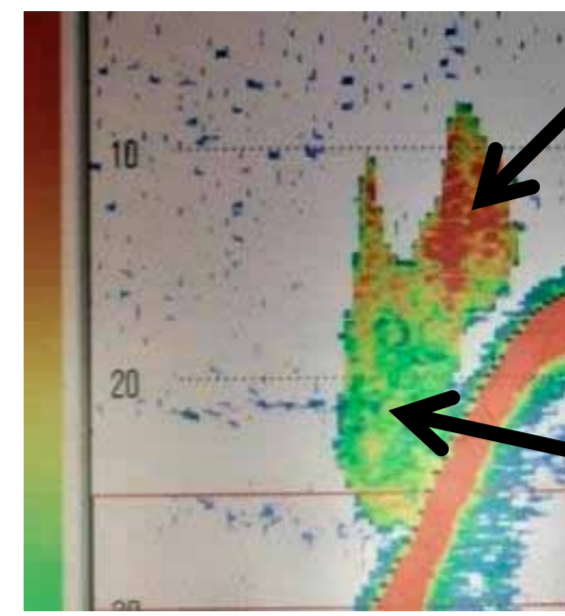
- 12月～8月の漁期をとおして、エリやヤナなどでとれたアユ標本の大きさをはかります。
- それぞれの場所や漁法でとれる状況を漁師から聞き取ります。
- 昭和47年(1972年)から続けています。
- 漁業でとれたアユの成長状況を見えています。

アユ資源調査の新たな技術開発

科学計量魚群探知機による湖中アユ尾数の推定



- 魚群探知機は船から音波を水中に出して、その音波のはねかえり(反射)で、魚の群れ(魚群)の大きさや、魚がいる深さを調べます。
- 科学計量魚群探知機では魚群の反射の強さをはかることができるため、1尾あたりの反射の強さから魚群中のアユの数を計算することができます。

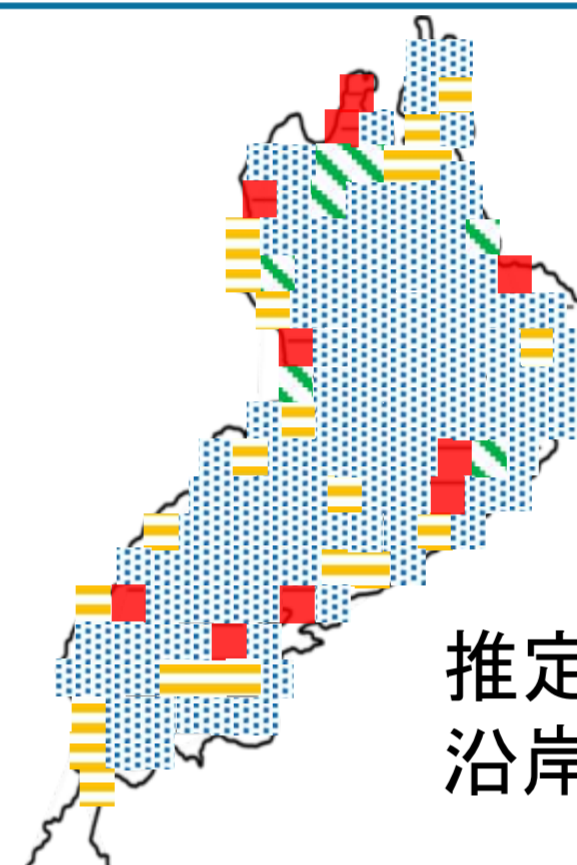
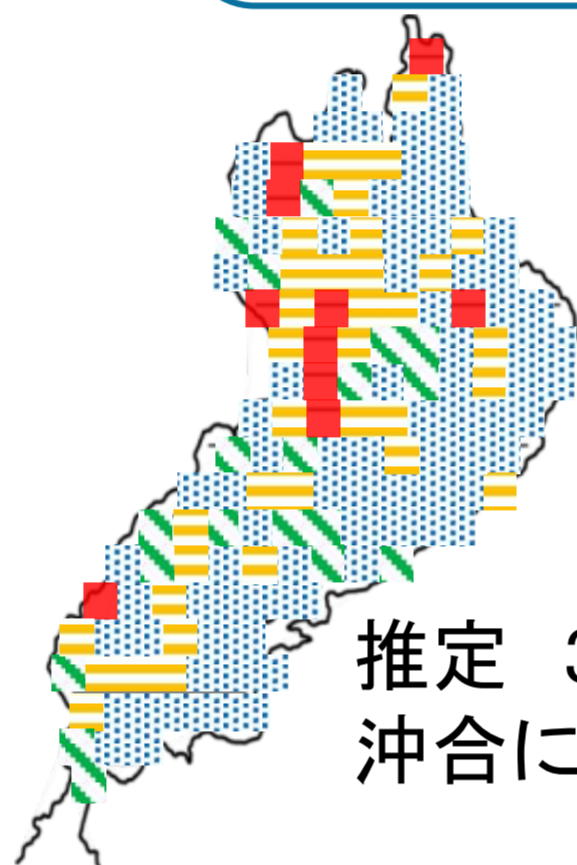


赤: 反射が強い魚が多い

緑: 反射が弱い魚が少ない

- これまでのびわ湖周回コースから、約2km間隔でびわ湖の全域を調査することにより、びわ湖内のアユの数(資源量)が推定できます。また、びわ湖でのアユの分布の状況がわかります。

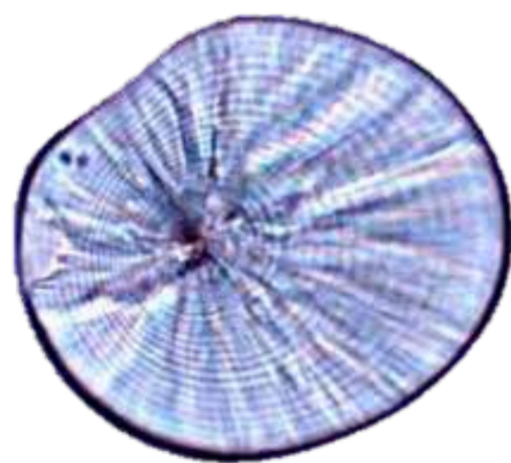
$$\frac{\text{一定面積内の魚群の音波反射強度}}{\text{1尾あたりの反射強度}} \times \text{調査面積(北湖面積)} = \text{湖中アユの資源尾数}$$



アユ分布状況結果(左:2018年3月、右:2018年6月)

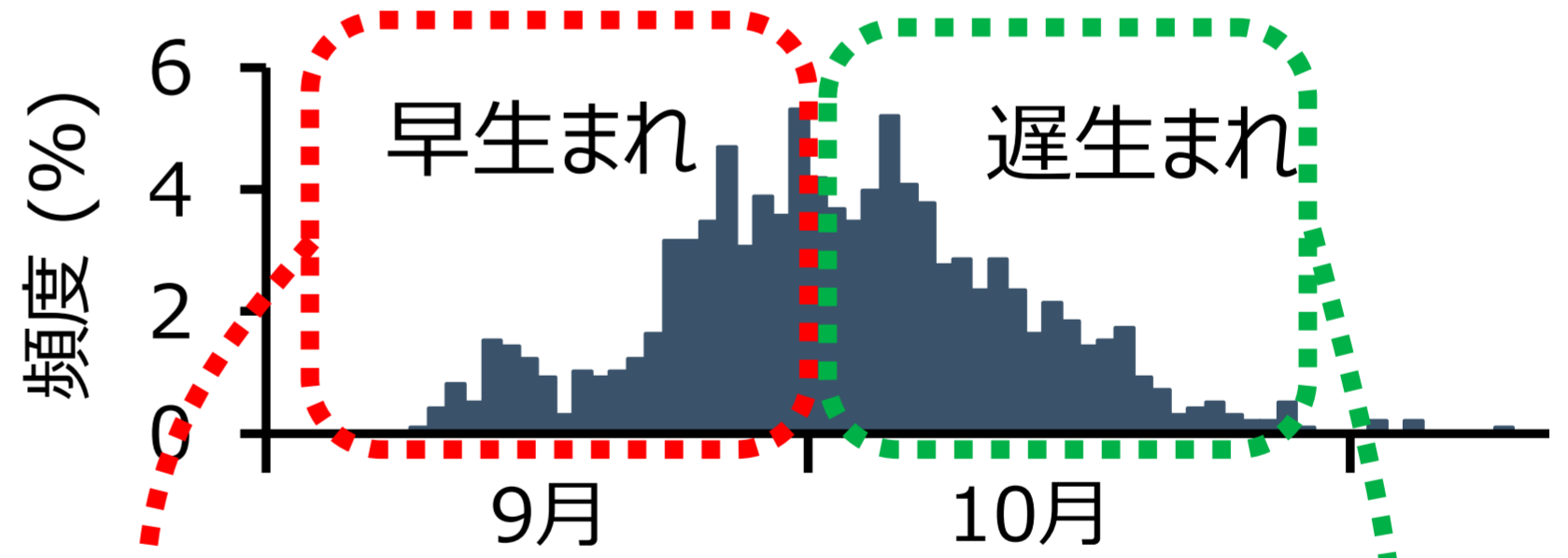
耳石日周輪解析による漁況予報

じせき
耳石

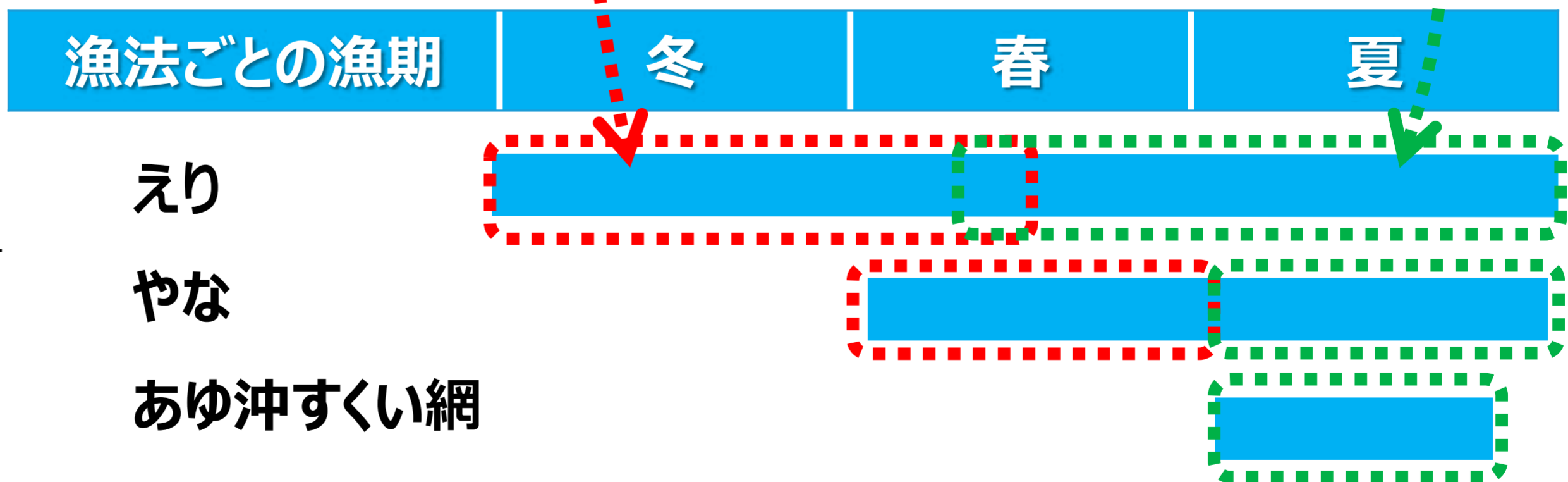


漁獲されたアユの
日周輪を計測し
ふ化日を特定

- アユの頭にある耳石をとり出して一日ごとにできる木の年輪のような筋(日周輪)を数えます。
- ヒウオ生息状況調査などでとれた約500~1,000尾のアユのふ化日を調べて、いつ生まれのアユが多いか調べます。



かびそせい ぎょきょう よほう
ふ化日組成を漁況予報に活用



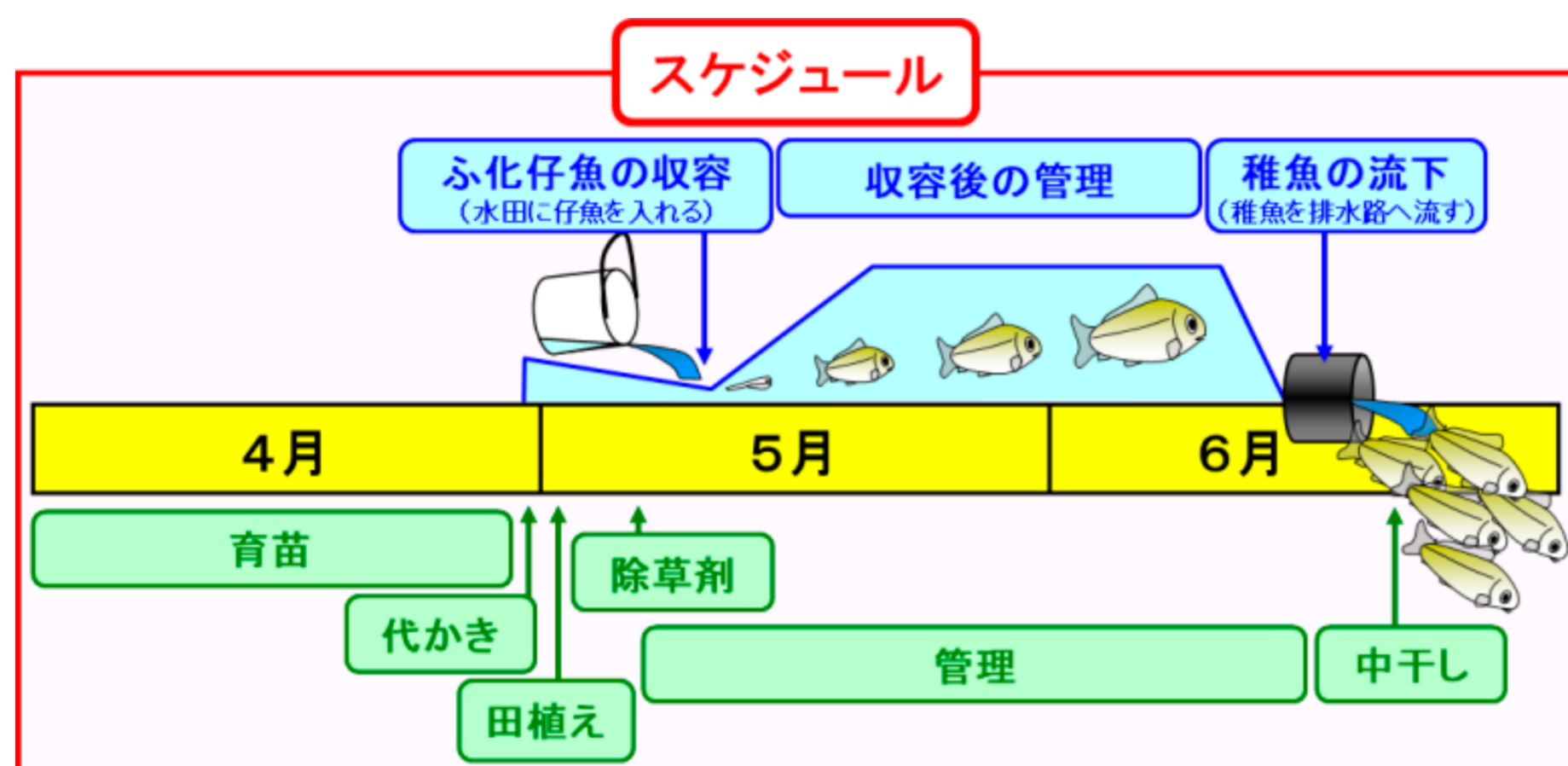
- 9月中旬に生まれた(早生まれ)アユは、漁期はじめ(12月)から春(4月)までのエリや早期(4月)のヤナでとられます。
- 10月に生まれた(遅生まれ)アユは5月以降のエリや夏のヤナ、あゆ沖すくい網などの漁期後半にとられます。

漁期前に採集されたアユのふ化日組成を把握することにより、漁期、漁法ごとのアユの好漁・不漁の予報をすることができる。

水田を利用した在来魚の育成

水産試験場の研究により、ホンモロコやニゴロブナのふ化仔魚を水田で育成すると、全長20 mmに育つまでの生残率が天然水域と比較して非常に高くなることが明らかになりました。

水田を活用して育成した稚魚は、育成された水田付近に産卵回帰することが確認されたことから、琵琶湖での漁獲量を増やすだけでなく、再生産による増殖も期待されます。



水田を利用した育成のメリット

- 琵琶湖より水温が高く、成長が早い
- 魚の餌となる動物プランクトンが豊富
- 外来魚が生息せず、安全に成育ができる

西の湖へ放流されたホンモロコの琵琶湖での分布と回帰

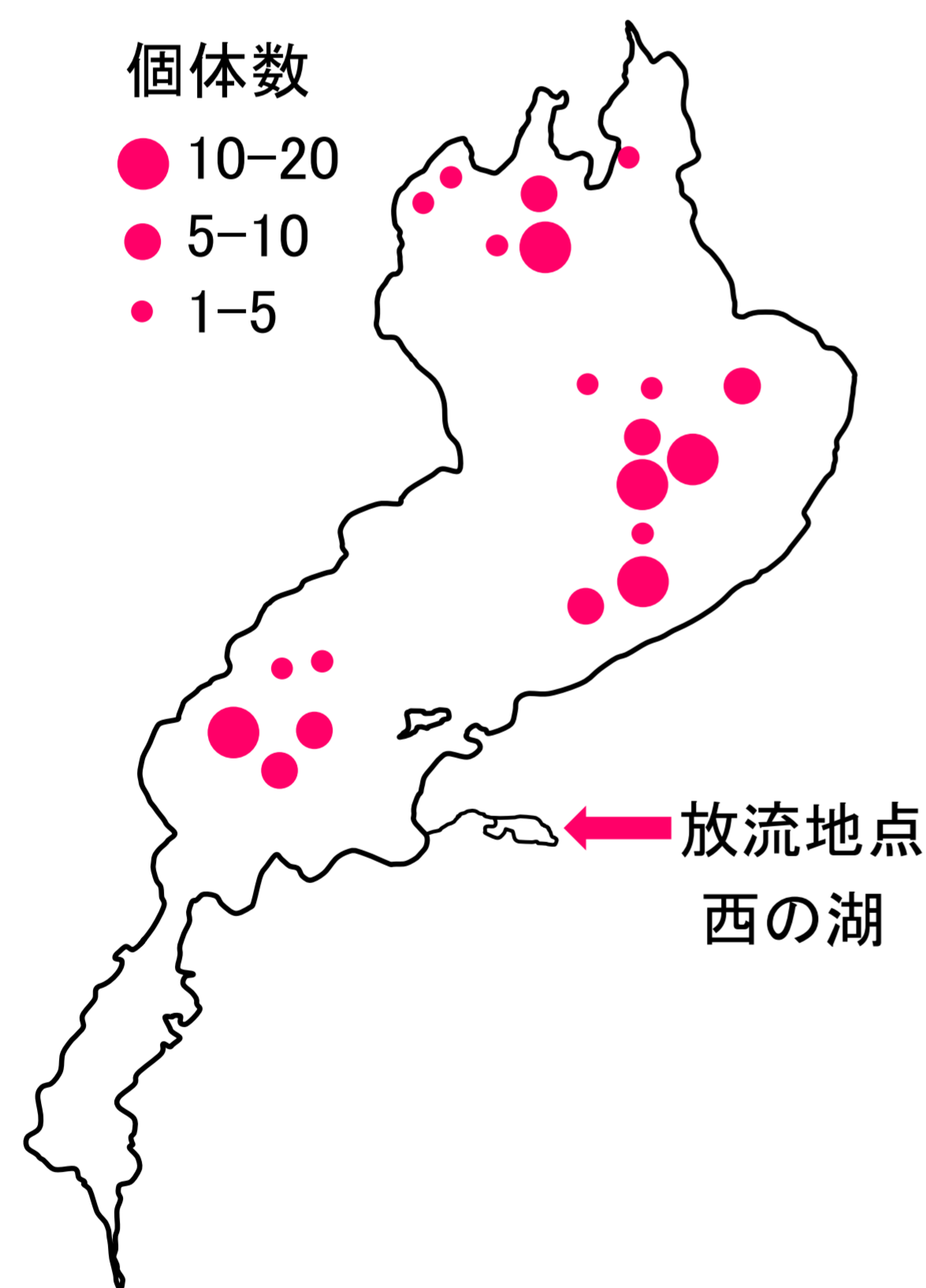


図1 2012年に西の湖へ放流されたホンモロコの冬の琵琶湖での分布 (2013年1~2月)

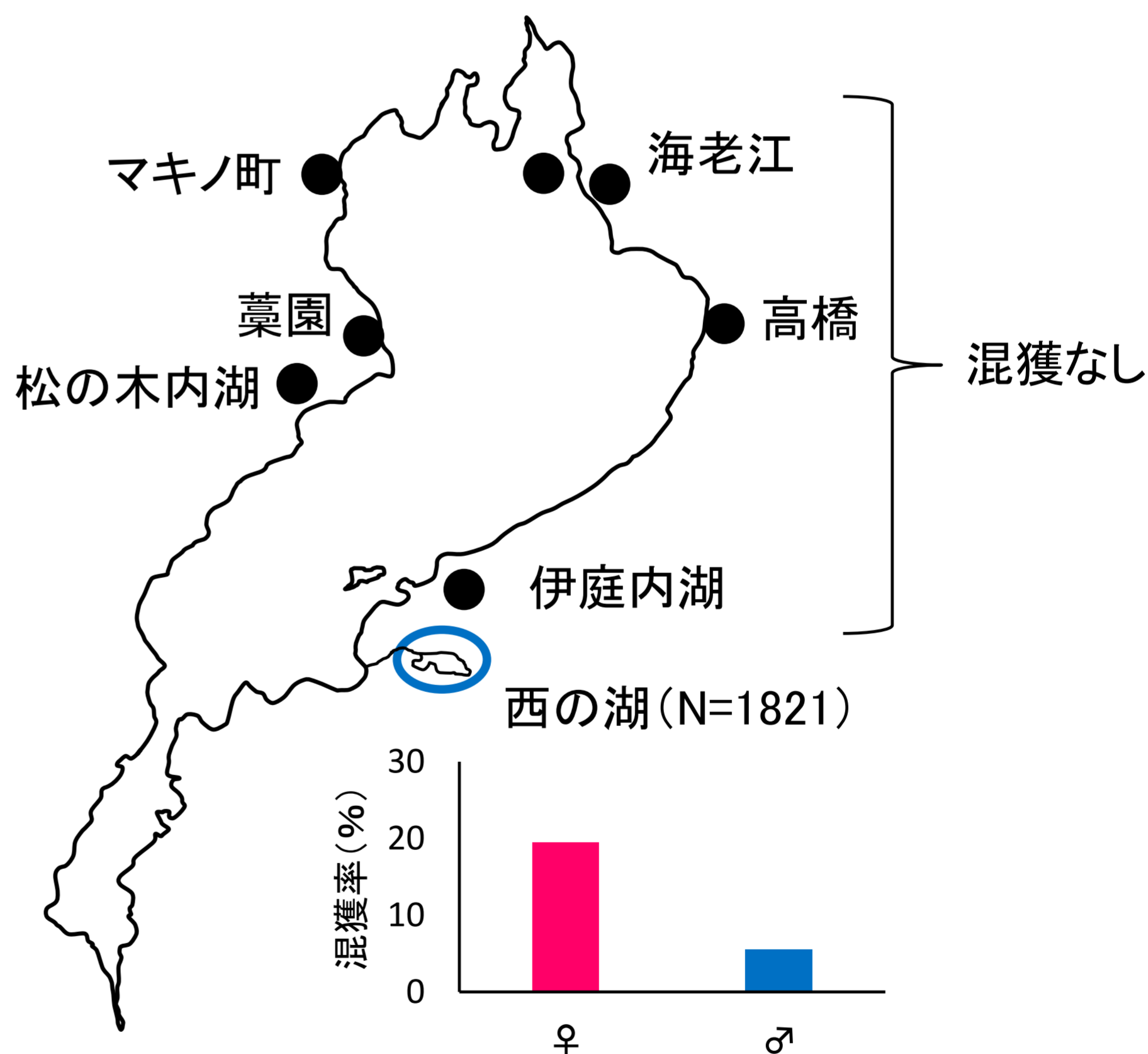


図2 2012年に西の湖へ放流されたホンモロコの接岸状況 (2013年2~6月)

- 稚魚期(6月)に西の湖に放流したホンモロコは冬季には北湖の全域にわたって分布していることがわかりました。
- 北湖の各地で産卵のために接岸した親魚を調べたところ、放流魚は西の湖周辺でのみ確認され、西の湖に放流されたホンモロコの多くが稚魚期をすごした場所の付近で産卵する可能性が考えられました。

西の湖へ放流されたニゴロブナの琵琶湖での分布と回帰

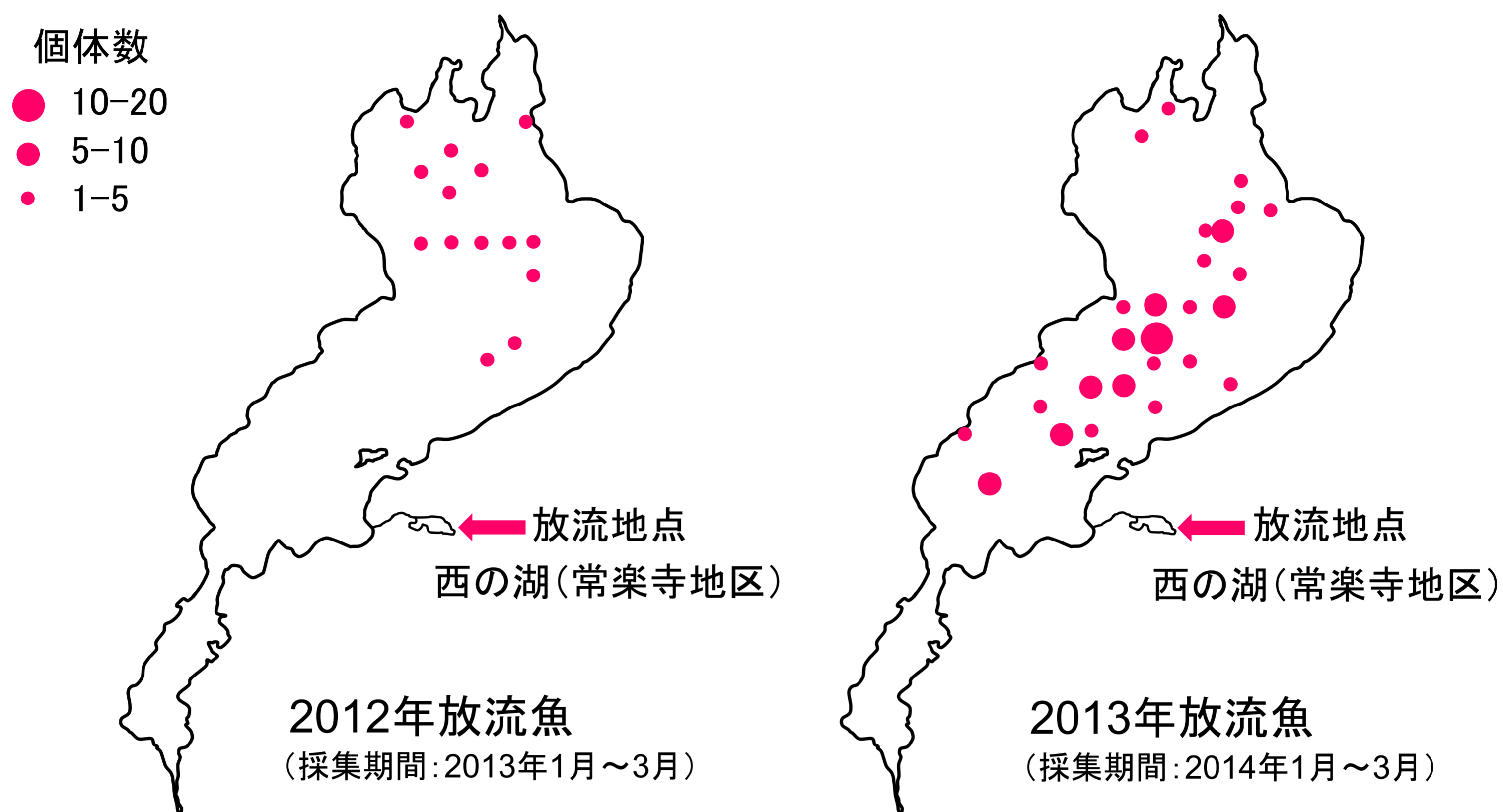


図1 西の湖周辺(常楽寺地区)水田放流ニゴロブナの冬期の琵琶湖内での採捕地点と採捕尾数

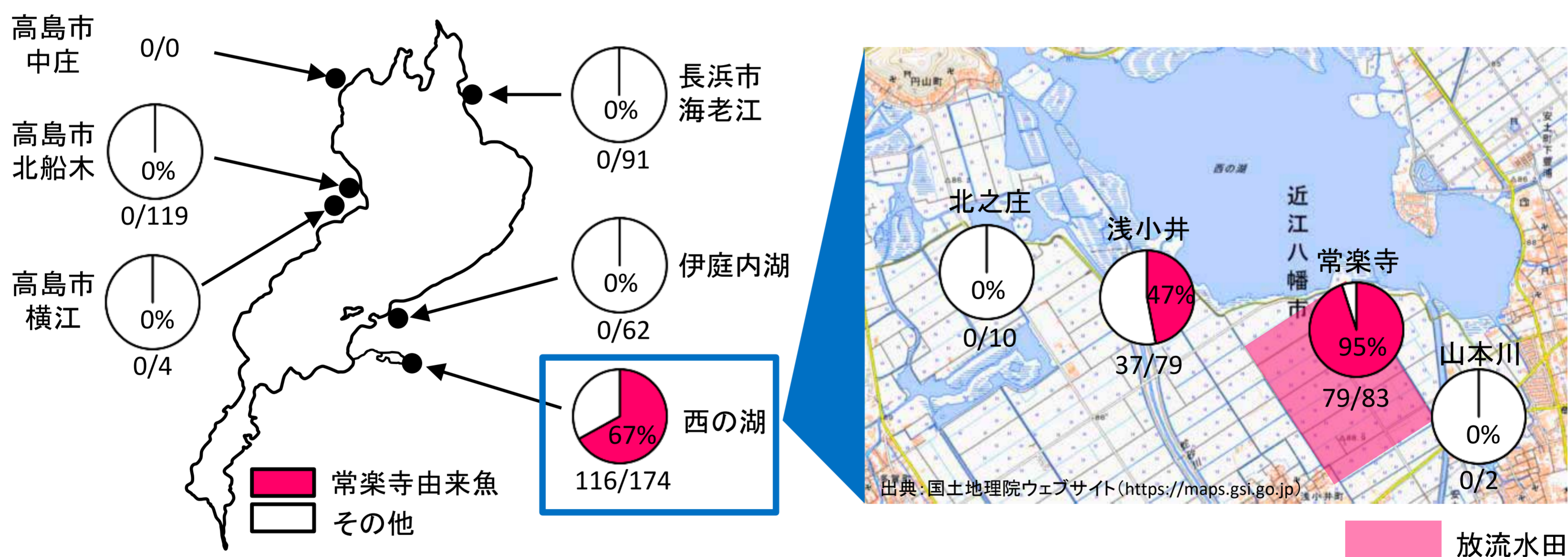
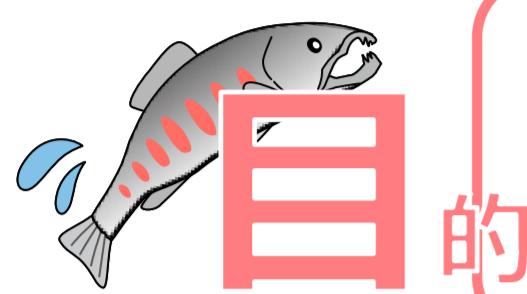


図2 2015年4~6月に琵琶湖周辺の農業用水路で採捕されたニゴロブナにおける常楽寺由来魚の混獲率

- 西の湖周辺の水田で育成され、流下したニゴロブナは、冬季には北湖に広く分散していることが確認されました。
- 4月~6月に北湖と西の湖周辺の農業用水路でニゴロブナを捕獲したところ、西の湖周辺でのみ放流魚が混獲され、なかでも放流水田に近い場所で多くの放流魚が確認されました。

家棟川・童子川・中ノ池川に ビワマスを戻すプロジェクト



秋期に琵琶湖から遡上する**ビワマスを家棟川のシンボル**とし、**ビワマスが遡上、産卵、繁殖できる環境を整える**ことなどを通じて、家棟川およびその支流河川の自然環境を再生し、ひいては野洲市のまちづくりや活性化につなげていきます。平成27年8月に結成されました。

場所

野洲市域を流れる家棟川の上流～下流で活動を行っています。これまで23種類の在来魚が確認されていて、これは県内河川屈指です。



メンバー

市民、企業、専門家、行政、学生等が協働し、それぞれにしかできない役割を果たしながら検討を進めています。地元などの協力を得ながら活動しており、さらに仲間を増やしながら活動を展開していきたいと考えています。

市民

富波乙自治会農地水環境保全委員
中ノ池・童子川生態調査委員
地元自治会関係者
祇王まちづくり推進協議会
童子川・家棟川河川愛護会
野洲市里川づくり委員会
NPO家棟川流域観光船

企業等

TOTO株式会社
滋賀県立大学（学生）
立命館大学（学生）

行政

野洲市環境課
滋賀県琵琶湖保全再生課
滋賀県南部土木事務所

専門家

滋賀県水産課
滋賀県水産試験場
琵琶湖環境科学研究センター
（外部協力者）
徳島大学 浜野教授
兵庫県立大学 三橋講師
滋賀県立大学 瀧准教授

活動

ビワマスが遡上、産卵、繁殖できる環境の再生に向けて、これまで主に3つの活動を実施してきました。ビワマスの稚魚が初めて発見されたり、設置した魚道を遡上するなど、すでに多くの成果が得られています。

活動①：産卵床の造成

河床に礫を入れ、ビワマスが産卵できる環境を整えました。すると、遡上してきたビワマスが産卵床を使う姿が何度も目撃され、春にはその周辺で多くの稚魚を確認しました！



ビワマスが産卵行動！



活動開始以降、毎年稚魚を発見！

活動②：魚道の設置

家棟川の支流、中ノ池川にある高低差3.2mの落差工がビワマスの遡上を阻害していることから、魚道の設置を行いました。平成30年度にはついにビワマスが遡上しました！



念願のビワマスが遡上！

鋼製魚道完成！

活動③：調査と監視

ビワマスの遡上状況を確認するとともに、違法な採捕の監視を行いました。降雨とともに遡上するビワマスの特性が明らかになりました。

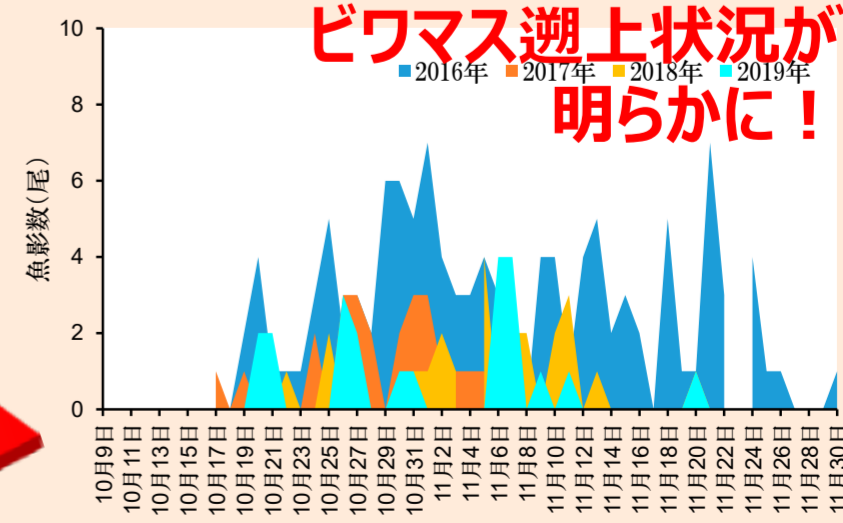
毎日の遡上調査・監視



調査票の記録

日付	時間	場所	魚数	備考
10月11日	10:00	中ノ池川	0	
10月13日	10:00	中ノ池川	0	
10月15日	10:00	中ノ池川	0	
10月17日	10:00	中ノ池川	0	
10月19日	10:00	中ノ池川	0	
10月21日	10:00	中ノ池川	0	
10月23日	10:00	中ノ池川	0	
10月25日	10:00	中ノ池川	0	
10月27日	10:00	中ノ池川	0	
10月29日	10:00	中ノ池川	0	
10月31日	10:00	中ノ池川	0	
11月2日	10:00	中ノ池川	0	
11月4日	10:00	中ノ池川	0	
11月6日	10:00	中ノ池川	0	
11月8日	10:00	中ノ池川	0	
11月10日	10:00	中ノ池川	0	
11月12日	10:00	中ノ池川	0	
11月14日	10:00	中ノ池川	0	
11月16日	10:00	中ノ池川	0	
11月18日	10:00	中ノ池川	0	
11月20日	10:00	中ノ池川	0	
11月22日	10:00	中ノ池川	0	
11月24日	10:00	中ノ池川	0	
11月26日	10:00	中ノ池川	0	
11月28日	10:00	中ノ池川	0	
11月30日	10:00	中ノ池川	0	

ビワマス遡上状況が明らかに！



川を学び、楽しみ、愛する！



ブログ

新大宮川を美しくする会

新大宮川を美しくする会とは

比叡山のふもと、琵琶湖に面する大津市比叡辻で2016年に設立した河川愛護団体です。通称「**新大宮川**」（一級河川大宮川（放水路）・足洗川の下流部）とその周辺の環境・美化清掃活動をしています。



1975年



2010年

出典：国土地理院 地図・空中写真閲覧サービス

魚道・アユの産卵床づくり・魚類調査



地点ごとの魚類調査にもとづき、アユを外来魚などの捕食から守り、遡上を促すために、**魚道に溜まった土砂を取り除き、川の流れを誘導するなどの魚道づくり**をしています。アユの産卵期には、産卵床をつくりっています。将来的には、「琵琶湖の宝石」ビワマスの遡上、復活を目指します。



魚道の土砂を除去しています



ときには水みちも造成

<BEFORE>



<AFTER>



草木で覆われた魚道が、こんなに綺麗になりました！

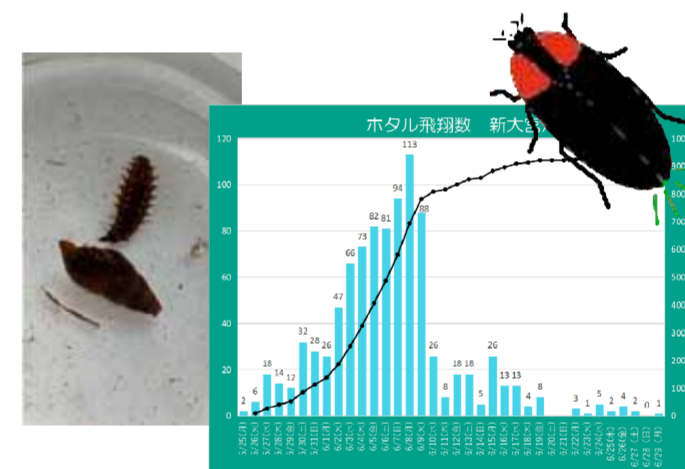


遡上したアユが産卵できるように、川底の砂利を耕耘してやわらかくしています

他にもこんな活動を行っています！

ホタルの観察・復活

初夏に100羽以上の天然のゲンジボタルを観ることができます。ホタルやそのエサとなるカワニナが生息しやすい環境づくりをしていきます。



草刈り・ゴミ拾い

河川の土手、空き地に繁茂する草を刈り、散乱するゴミ捨てを回収、不法投棄を監視し、河川の安全管理や景観・美化を良くしています。



野鳥観察

「空飛ぶ宝石」と呼ばれるカワセミをはじめ、サギ、カモ、オオバン、セキレイ、メジロ、ジョウビタキなど、川の鳥だけでなく琵琶湖や山の鳥が40種類以上観られます。



花壇づくり

春秋年2回、一年草を河川近くの市道街路樹下のスペースや橋上の花壇に花苗を植え、河川周辺やまちをきれいにしています。



水質調査

水質改善・維持のために、年に1回定期的に、上流から下流まで、5地点での化学的酸素要求量（COD）測定を行っています。



草木観察

100種類以上の植物を観ることができます。植物の多様性を維持し、様々な川辺の生き物の生息環境を守ります。

防災学習

人工河川である新大宮川の構造、過去の水害、ハザードマップなどから、地域の防災を学び、備えます。

植樹

河川周辺に鑑賞のためや木の実が鳥たちの食料となるように、サクラをはじめユキヤナギやアジサイ、ツツジ、センリョウなど、約70本を植えています。



魚のゆりかご水田プロジェクト

令和2年度 25地域(143ha)で取り組まれました!



「魚のゆりかご水田プロジェクト」／「豊かな生きものを育む水田」 各地域の取組のご紹介

① 大津・南部地域の「魚のゆりかご水田」

取組の内容:

草津市の集町、志那町、志那中町や、野洲市の安治、須原、野田で取り組んでいます。

草津市志那中町(志那中環境を守る会):

堰上型魚道せきあげに一筆型魚道を組み合わせて取り組んでいます。毎年 6 月に、地元の常盤小学校の児童(5 年生)や地元住民を対象に観察会を実施しています。

野洲市須原(須原魚のゆりかご水田協議会):

都市住民や県内外の大学・企業等と連携しながら、田植え体験、生きもの観察会、収穫体験などを毎年行っており、「オーナー制度」にも取り組んでいます。「魚のゆりかご水田米」を使った純米吟醸酒も生産するなど6次産業化にも取り組んでいます。平成 23 年度「豊かなむらづくり表彰事業」の「農林水産大臣賞」をはじめ多くの賞を受賞しています。

現地の様子:



草津市志那中町の一筆型魚道



野洲市安治での流下調査の様子



野洲市須原での魚道設置作業

② 甲賀地域の「豊かな生きものを育む水田」

取組の内容:

甲賀地域では、「冬みず田んぼ」、「小溝の設置」等に取り組んでいます。

甲賀市甲賀町小佐治(小佐治環境保全部会):

中山間地の重粘土質という水稻には厳しい条件ながら、皇室に献上されるなど上質な糯米もち米の生産を行ってきた地域です。

中山間地の湿気田に悩まされていたところ、水田内水路に取り組むことにより、営農機械が田に入りやすくなり、生きものにも営農にも効果がありました。調査により、魚類(メダカ、ドジョウなど)、両生類(アカガエルの仲間)を中心に多くの生きものの生息場所になっていることが確認でき、地域の小学校の環境学習の場としても活用され、地域の賑わいにつながっています。

現地の様子:



甲賀市小佐治地区での小溝の設置の様子



ドジョウ



メダカ

小溝で観察される水生生物

「魚のゆりかご水田プロジェクト」／「豊かな生きものを育む水田」 各地域の取組のご紹介

③ 東近江地域の「魚のゆりかご水田」と「豊かな生きものを育む水田」

取組の内容:

近江八幡市の浅小井町、小田町、北之庄町、島町、野村町、牧町、南津田町、東近江市の栗見出在家町などで取り組んでいます。

東近江市栗見出在家町(栗見出在家町魚のゆりかご水田協議会):

生態系の保全と地域活性化の両立に向け、集落全体が一致団結して取り組んでいます。農薬によるカメムシ防除を廃し、色彩選別機を活用した品質管理を実施しています。

都市農村交流面では、「水田オーナー制度」を導入し、田植え体験、生き物観察会等を開催。魚のゆりかご水田米を使った洋菓子や日本酒造りなど6次産業化を進めています。

「全国農林水産祭 内閣総理大臣賞(多角化経営部門)」(平成29年11月)、「第10回毎日地球未来賞」(令和3年3月)等を受賞しています。

現地の様子:



魚道の設置



魚道を跳ねて遡上している親魚



流下調査で確認された稚魚

日野町で水田の生物について調査をしました:

小溝の設置により、いろいろな生きものが増えてきます。



シオカラトンボ(幼虫)



タイコウチ



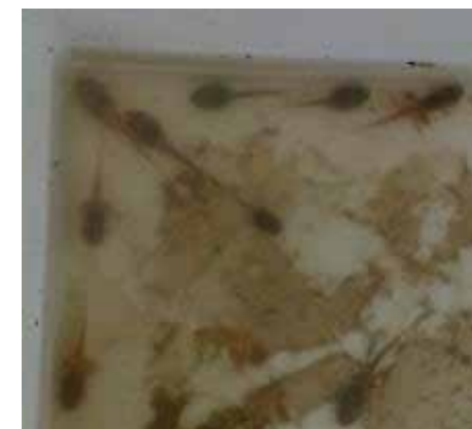
トンボ幼虫



イモリ



コオイムシ



オタマジャクシ



分類調査

④ 湖東地域の「魚のゆりかご水田」

取組の内容:

彦根市の田附町、南三ツ屋町、石寺町で「魚のゆりかご水田」に取り組んでいます。田んぼに親魚が多数遡上し、たくさんの稚魚を確認しています。柳川町、薩摩町、三津屋町では、「豊かな生きものを育む水田」の活動の一環として「ゆりかご水路(水位を高め確実に確保して魚類の産卵・成育の場とする方法)」に取り組んでいます。

現地の様子:



遡上する魚の群れ



田んぼに入る親魚



田んぼでの親魚



遊泳する稚魚



捕食するアオサギ

「魚のゆりかご水田プロジェクト」／「豊かな生きものを育む水田」 各地域の取組のご紹介

⑤ 湖北地域の「魚のゆりかご水田」

取組の内容:

長浜市の早崎地区、西浅井町岩熊で取り組んでいます。

普及拡大を図るために、簡易で安価に取り組める方法も必要です。左下の写真は湖北地域での一筆魚道についての地元説明会の様子です。

現地の様子:



長浜市早崎地区 魚道の設置



水田内で相手を探すフナの様子

⑥ 高島地域の「魚のゆりかご水田」

取組の内容:

高島地域では、高島市マキノ町知内、大沼などで取り組んでいます。

高島市マキノ町知内(広域たかしま知内):

コロナ禍であり、地域の子ども達に範囲を絞って生きもの観察会を行いました。「村の日記研究会」※のみなさんが、子ども達にスケッチを教えるなど充実した内容になりました。魚のゆりかご水田は、多くの人を集めて自然を振り返る貴重な取組になっています。

※高島市マキノ町知内をフィールドに地域の生活、文化を研究されているグループ

現地の様子:



高島市マキノ町知内での観察会



魚の絵のスケッチ



魚道設置の様子



観察会でのフナ



環境こだわり農業の指標となる生物



研究目的

滋賀県では「滋賀県環境こだわり農業推進条例」を制定し、環境保全型農業への取り組みを進めています。しかしながら、環境こだわり農業が生物多様性に及ぼす影響を評価する手法は開発されていません。

そこで、県内の平坦地水田域の水稻栽培ほ場において、昆虫や小動物を調査し、環境こだわり農業への取り組みが進んだ地域(集落)に特徴的に出現し、指標となりうる生物について検討しました。

なお本研究は、農林水産省委託プロジェクト「農業に有用な生物多様性の指標および評価手法の開発」の一環として行っています。

調査地域

「環境こだわり農産物」に取り組むほ場の割合が高い集落を「環境保全区」、その近隣に位置する「環境こだわり農産物」に取り組むほ場の割合が比較的低い集落を「慣行区」として、県北部地域、東部地域、南部地域それぞれに試験区を設定しました(表1)。各区からほぼ同一の栽培管理がなされている3筆を選び、調査ほ場としました。

調査方法

2008年と2009年に以下の調査を行い、指標生物の候補となる種やグループを選抜しました。

- 畦畔と本田内におけるスウィーピング
- 畦畔および畦際の見取り調査
- 本田内での払い落とし調査
- 水中ライトトラップ調査
- 調査ほ場周辺でのルートセンサス
- ニカメイガ越冬幼虫の寄生蜂による寄生率(北部のみ)

表1 調査地域の概要

	こだわり認証率*1	農地・水*2	調査ほ場の殺虫剤使用		調査ほ場の畦畔管理			
			育苗箱	本田				
環境保全区	高	○	北部	2008年	高月町A集落	無	無	草刈り
			2009年	高月町A集落	無	無		
			東部	2008年	東近江市B集落	無	有	
			2009年	東近江市C集落	無	有		
			南部	2008年	守山市D集落	無	有	
			2009年	守山市D集落	無	有		
慣行区	低	×	北部	2008年	高月町E集落	有	有	除草剤
			2009年	高月町E集落	有	有		
			東部	2008年	東近江市F集落	有	無	
			2009年	東近江市F集落	有	無		
			南部	2008年	守山市D集落周縁部	有	有	
			2009年	守山市G集落	有	有		

*1: 認証率: 県の環境こだわり農産物(化学合成農薬の成分数と化学肥料窒素成分量が慣行の5割以下、琵琶湖や周辺環境に配慮した技術を用いて栽培する)の生産に取り組む面積率

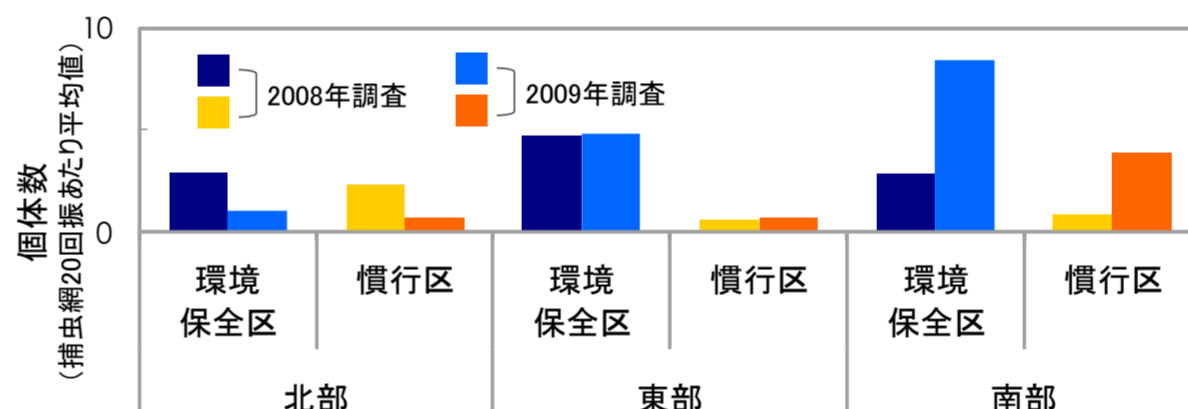
*2: 農地・水: 環境保全向上対策の取り組みの有無

結果と指標生物の候補

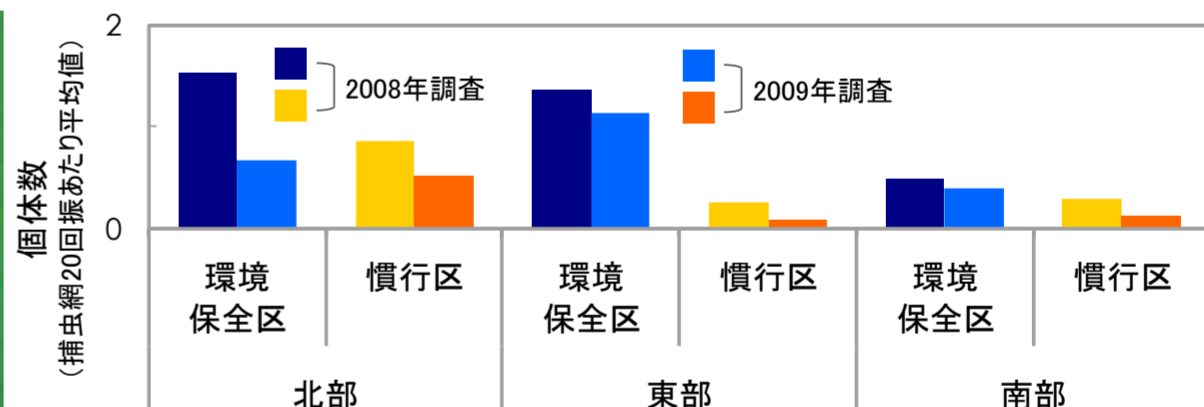
以下の生物種およびグループが環境保全区で多い傾向がみられ、指標生物の候補と考えられました。

- アジアイトトンボ(本田スウィーピング)
- シオカラトンボ類(ルートセンサス)
- ホソヒメヒラタアブ(畦畔スウィーピング)
- トガリアシナガグモ(本田スウィーピング)
- オオアシコモリグモ属(畦畔スウィーピング)
- セスジアカムネグモ(本田払い落とし)
- ニセアカムネグモ(本田払い落とし)
- ヨツボシヒメアシナガグモ(本田払い落とし)
- ナガコガネグモ(ルートセンサス)
- メイチュウサムライコマユバチ(ニカメイガ越冬幼虫飼育)
- ムナカタコマユバチ(ニカメイガ越冬幼虫飼育)

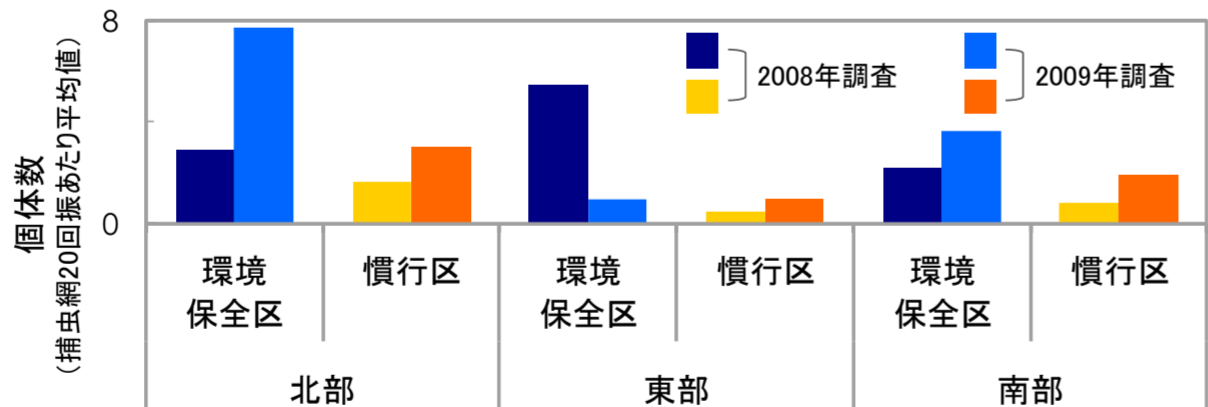
()内は調査方法



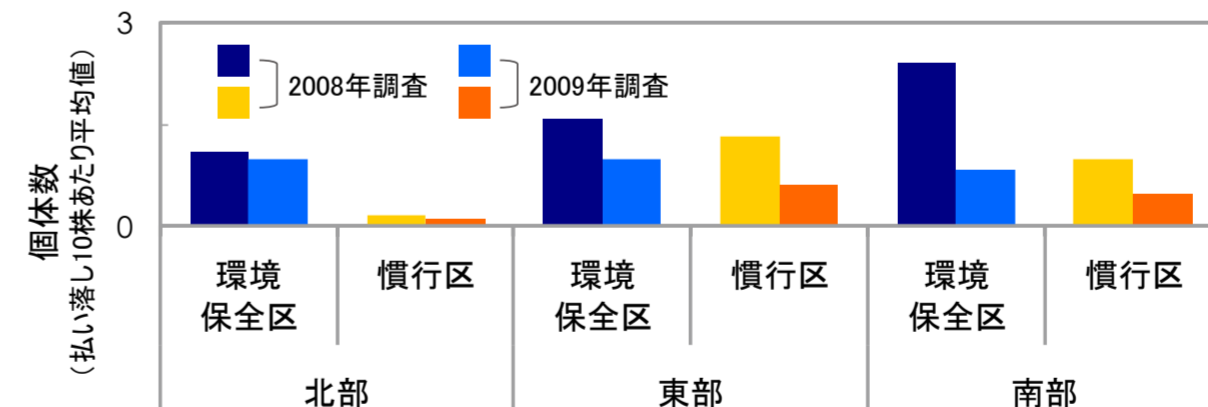
※調査期間 2008年: 6月下旬~9月下旬の6~7回調査 2009年: 6月下旬~9月下旬の5~7回調査



※調査期間 2008年: 5月下旬~9月下旬の7~10回調査 2009年: 5月下旬~9月下旬の7~9回調査



※調査期間 2008年: 5月下旬~9月下旬の7~10回調査 2009年: 5月下旬~9月下旬の7~9回調査



※調査期間 2008年: 8月下旬と9月上旬の2回調査 2009年: 7月下旬~9月下旬の3~4回調査



シオカラトンボ類



せんとくしやくひさい

おぼえてね!



全国植樹祭って…みんな、知ってる?

全国植樹祭は、まい年、

日本のどこかで森や緑のことを国民みんな

考えようと集まる大会です。

天皇皇后両陛下をおむかえし、苗木をうえたり、

種をまいたり…さまざまな行事を行います。



式典会場イメージ図

令和4年春、72回目の大会を

しが県で開催します。



▲天皇陛下によるお手うえ(植樹)



▲皇后陛下によるお手まき(種まき)
(上の写真はともに第70回あいち大会)

お手うえ・お手まきの

種類。

しが県
なじみの木
ばかりだ
wo~



▲スギ (少花粉)



▲ヒノキ



▲トチノキ



▲イロハモミジ



▲アカガシ



▲エドヒガン



▲クロマツ



▲ホンジャクナゲ



▲コウヤマキ



▲ウツクシマツ

うーたん
全国植樹祭しがPR大使

うーたん

びわ湖の水の妖精(ようせい)。
しが県の公式キャラクター。
びーあるたいし
PR大使になって全国植樹祭
しが2022を応援しています。
これからもヨロシク!

式典の会場は

甲賀市「鹿深夢の森」。

ダンスや合唱などをまじえて、
森や緑の大切さをつたえます。

森をまもり、きれいな

びわ湖を、未来へ。

森とびわ湖は川をつうじてつ
ながっています。次の世代を
になう子どもたちと、緑をまも
り育て、ゆたかな森とあおくか
がやくびわ湖を未来へつない
でいきます。

苗木のスクールステイ

とホームステイ。

小学校
で育てて
ねwo~



野洲小学校スクールステイ

小学校の「やまのこ」学習で
苗木を育てるスクールステ
イ。おうちやグループで苗木
を育てるホームステイとあわ
せて、約1万本を育成中。
育てた苗木を全国植樹祭
でつかい、しが県のゆたか
な森づくりにつなげます。



第72回全国植樹祭しが2022 令和4年春 開催!



木育のすすめ

滋賀県版

～木育活動「さしすせそ」～

さ

触ってみよう
木のおもちゃ



し

知ってほしいな
滋賀の森林



す

好きになってね
木製品



せ

生活に活かそう
木の魅力



そ

育て守ろう
木の文化



木の温もりから始まる琵琶湖に優しい社会づくり

ヨシの一年

ヨシ群落
の保全

ヨシと人との
関わり

4月 芽だし



3月下旬頃
から発芽

6月 新芽が成長



春から夏にかけて
急成長

雑草対策、防虫、
消毒等の効果

春、水辺のヨシ原は
魚類の産卵場所

3月 火入れ



8月 夏のヨシ原



青々としたヨシ原が
広がる

萱葺き屋根や
スタレ等に利用

2月 ヨシ刈



12月 冬のヨシ原



生長したヨシは、
冬場になると一面茶色に

アイキッズ

～エコアイデアキッズびわ湖～

アイキッズは、**滋賀の伝統漁法や湖魚食文化、環境こだわり農法(魚のゆりかご水田)**体験を通して、こども達が、琵琶湖の宝や、恵みに気づき郷土に**愛着や誇りを持つ**ことをねらいに活動している。また、人と人との**「つながり」を大切に**して、次世代への育成を図る。



① 滋賀の伝統食づくり

滋賀の食文化財「なれずし」づくりを体験。



② 湖魚食料理などを体験

「固有種のニゴロブナ、ゲンゴロウブナ、ピワマス、ホンモロコ、セタシジミ等を料理体験して食べる。」



③ 伝統漁法体験

琵琶湖独特の「セタシジミ漁」「えり漁」等の体験。



④ 須原魚のゆりかご水田

5月:田植え、6月:生きもの観察、9月:稲刈りと体験を通して、「環境こだわり農業と、琵琶湖のつながり」を学ぶ。



⑤ 子ども達が話し合いで主体的に決める。

活動内容やテーマは、こども達が決める。
滋賀県草津市内の小中高校生が、月に一度程度活動。

⑦ 人と人とのつながりを大切に

滋賀県、草津市、琵琶湖博物館、琵琶湖の漁協、JA、大学、企業、NPO等の協力を得て活動。

⑧ 活動が認められて・・・主な受賞歴

- ・淡海こどもエコクラブ活動交流会 **知事表彰** 8回他
- ・生物多様性アクション大賞2013 **大賞**(2013年)
- ・ESD KIDS FES!!! 地域貢献賞 **「環境大臣賞」**(2014年)
- ・日本水大賞 **「経済産業大臣賞」** 倶楽部受賞(2019年)
- ・生物多様性アクション大賞2019 **入選**(2019年)
- ・第2回 びわ湖チャレンジ大賞 **「こども育成部門」 大賞**(2020年)



南三陸少年少女自然調査隊とオンライン交流会(2021年1月)



ラムサールびわっこ大使

○ラムサールびわっこ大使とは

滋賀県内の小学校5・6年生から選ばれた子どもたち。滋賀県やびわ湖のことを学び、そのすばらしさを国内外に向けて発信する大使です。

役割 1 滋賀やびわ湖のすばらしさを国内外の子どもたちに伝える

役割 2 国内外で学んできたことを滋賀県内の子どもたちに伝える



令和2年度びわっこ大使

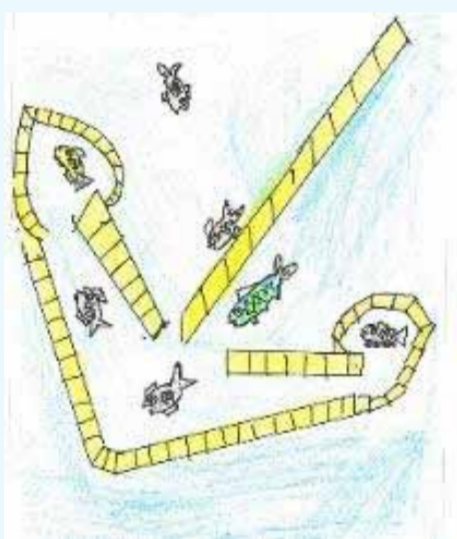


○県内での学習

令和2年度は琵琶湖システムに焦点をあて、『びわ湖をめぐる漁業・農業から「自然と共生する暮らし」を学ぶ』をテーマに3回の学習会を実施しました。

学習会では魚のゆりかご水田、エリ漁、ビワマスの保護増殖事業などについて学習しました。船に乗ってエリ漁を見学したり、農家さんや漁師さんからお話を聞いたりしました！

ふな寿司やアメノイオご飯などさまざまな湖魚料理作りに挑戦し、滋賀県の食文化について学びました。



○びわ湖のすばらしさを発信

これまでびわっこ大使はラムサール登録湿地を有する各地に派遣され、現地の子ともと交流してきました。平成30年には第17回世界湖沼会議子ども会議(茨城県)で国内外の参加者に向けて発表しました。

これまでの派遣先

海外:韓国、中国、タイ、インドネシア、

国内:福井県、宮城県、兵庫県、大阪府、熊本県、茨城県



世界湖沼会議での発表

びわっこ大使の募集について

毎年4月～5月頃に募集を行っております。

ご興味のある方は滋賀県ホームページをご確認ください！

<http://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/kankyoshizen/hozen/14004.html>

(滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課)





「びわ湖の日」ってどんな日?! 「びわ湖の日」は どうして
生まれ、どのようなことが行われてきたのだろう?

1977年

あか しお
赤 潮

1977年、びわ湖で初めて
大規模な「淡水赤潮」が
発生。

湖の富栄養化が進むと、プ
ラクトンが異常に増えて水
が変色する淡水赤潮を引き
起こします。



石けん運動

赤潮の原因の一つが合成洗剤
に含まれる「リン」であると知った
滋賀の人々は、自分たちの力で
びわ湖をきれいにしようと合成
洗剤をやめて粉石けんを使う
「石けん運動」を始めました。

7月1日を
「びわ湖の日」に決定

1980年

びわこじょうれい
琵琶湖条例

石けん運動を背景として、「滋
賀県琵琶湖の富栄養化の防止に
関する条例」(通称:琵琶湖条例)
を施行しました。

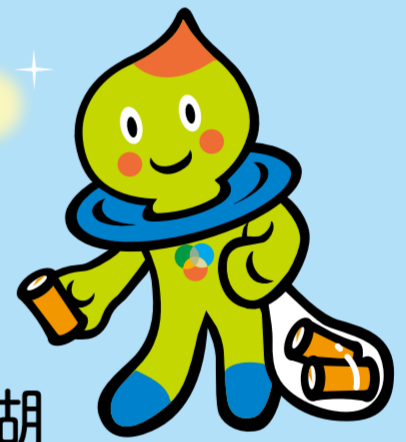
いこう
2011年以降

「びわ湖をきれいにしよう」、「豊かな
びわ湖を取り戻そう」、「びわ湖にもっと
関わろう」の3つの柱で多様な主体が連
携しながら、取組を進めています。



いっせいせいそう
「びわ湖の日」の一斉清掃

毎年、7月1日前後には県内全域で湖
岸や河川、道路など
の清掃活動が行われ、毎年10万人以上
が参加する取組
になっています。



2015年

ほぜんおよ さいせい ほうりつ
「琵琶湖の保全及び再生に関する法律」が施行

琵琶湖保全再生法でびわ湖が「国民的資産」と明記。
法に基づく計画により、びわ湖を「守る」と「活か
す」ことの好循環をつくることを進めています。

2021年

しゅうねん
「びわ湖の日」40周年

「びわ湖の日」はびわ湖への思いをみんなで共有して、環境を守る
取組を行う象徴的な日です。2020年は琵琶湖条例施行後40周年、
2021年は「びわ湖の日」40周年を迎えます。びわ湖を健全な姿で次
世代に引き継ぐために、私たちに何ができるのか、考えてみませんか?





びわ湖と一緒に生きていくために、暮らしの中で私たちに何ができるかな。考えてみよう。

★例えば・・・

節電、節水に
取り組もう

冷房を適切な温度に設定したり、蛇口はこまめにしめるなど身近なことから取り組もう。



プラスチックごみを
削減しよう



レジ袋はもらわないなど、できることはたくさんあるよ。

環境こだわり
農産物を選ぼう

環境こだわり農産物などびわ湖の恵みをいただくことで、びわ湖を守ろう。



環境のことを考えた
買い物をしよう

エコマークやグリーンマークは、「環境ラベル」といいます。どのようなものに「環境ラベル」がついているか、お店で見つけてね。



「琵琶湖ルール」を守ろう



釣り上げた外来魚は、びわ湖に戻さないでね。

学習会や講座に参加しよう

学習会や講座に参加して、びわ湖や環境のことをもっと勉強してみよう。



木でできた
製品を使おう

木の製品を使うことは、山を元気にすることにつながるよ。



【食品のロスを減らそう】「食品ロス」とは、「食べられるのに廃棄される食品」のことをいいます。日本では、年間約2,550万トンの食品廃棄物が排出されていますが、そのうち612万トン(平成29年度推計)が食品ロスといわれています。料理を残さず食べきる、必要な食材を必要な量だけ購入するなど、私たちの普段の生活から取り組めることはたくさんあります。



しが生物多様性取組認証制度

～生きものを守り、自然資源を持続的に利用されている事業者を応援します～



しが生物多様性取組認証制度ってなに？

「しが生物多様性取組認証制度」は**生物多様性の保全**や**自然資源の持続的な利活用**に取り組む事業者等を滋賀県知事が認証します。

こんな方におすすめ！

- ★ **既に**生物多様性の配慮に取り組んでいる事業者
 - 取り組みが適切に評価されていない
 - 情報発信の機会や場が限られている
- ⇨ 滋賀県の支援により**PRの輪が広がります**
- ★ **これから**生物多様性の配慮に取り組む事業者
 - 何が生物多様性の配慮の取り組みか分からない
- ⇨ チェックシートの**チェック項目や解説を参考に取組を始められます**

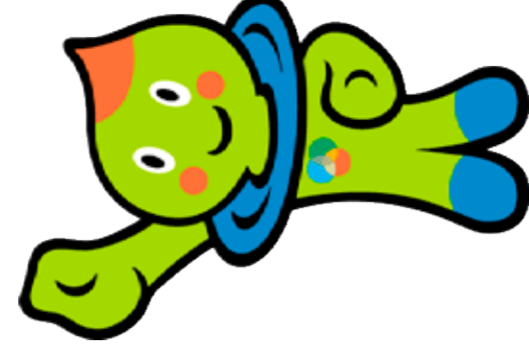


しが生物多様性取組認証制度の概要

対象	滋賀県内に本社または事業所をおく事業者等 (※事業者または事業所単位で認証)
評価対象	取り組みを推進する体制、生物多様性保全活動、自然資源の持続可能な利活用の取り組みなど
認証方法	チェックシートのチェック項目数に応じて3段階で認証します(☆・☆☆・☆☆☆)
チェックシート	事業者が実施できる生物多様性に関する幅広い項目を用意しています(34項目)
応募方法	申請書(基本事項を記載)、チェックシート、チェックした項目の実績がわかる資料を提出してください

認証事業者への支援

- ・認証マークをPRや名刺等に使用できます
- ・滋賀県より**認証書**を授与します
- ・認証事業者を**滋賀県ホームページ**で紹介し、認証事業者を自然環境に関するイベントなどで紹介し、**など、認証事業者のみなさまをサポートします!!!**



認証マークや認証書のメリット

認証事業者の生物多様性の保全や自然資源の持続的な利活用に資する取り組みを「**見える化**」することで、**事業者の強み(付加価値)**として活用していただけます。

認証マークについて

コンセプト

「**生きもの多様性**がつくる**滋賀の環境**」

滋賀県の環境のシンボルでもある「琵琶湖」と琵琶湖を囲むように「滋賀県を代表する生きもの」を配置し、**生きもの多様性が滋賀県の環境をつくりあげている様子**を表現しています。



申請・応募期間

申請書類・応募期間は、滋賀県ホームページでご確認願います。

